

## 依命留学報告書

学部名: 応用生物科学部

職名: 准教授

氏名: 谷本佳子

1. 留学先: ランカスター大学(英国) Department: English and Creative Writing
2. 研究課題: ヴィクトリア朝・エドワード朝のイギリス人女性旅行者とイタリア美術との出会い
3. 留学期間: 2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日
4. 留学期間中の活動報告

留学の目的は、ジョージ・エリオット、ジョージ・ギッシング、E. M. フォースターのイタリアを扱った小説に描かれている、ヴィクトリア朝・エドワード朝のイギリス人女性旅行者とイタリア美術との出会いについて研究を行うことであった。ジョージ・エリオットの *Middlemarch* (1871-72) については、イギリス人男性に導かれる存在として描かれているイギリス人女性とイタリアの芸術作品との関係性について研究を進めた。ジョージ・ギッシングの *The Emancipated* (1890)、E. M. フォースターの *Where Angels Fear to Tread* (1905) と *A Room with a View* (1908) については、イギリス人女性にとって、イギリス人男性と、時にイタリア人男性がイタリアの芸術作品の mediators (仲介者) であるという視点から作品分析を進めた。留学期間中の研究を通して、イギリス人女性旅行者とイタリアの芸術作品との関係性において、男性の存在が非常に重要であることが明らかになった。今後は、この視点から、クローズ・リーディングを通して、さらに研究を進めていきたい。

ランカスター大学でのホストである、Kamilla Elliott 教授と Jo Carruthers 博士とは、この数年間、メールやオンライン・ミーティングでのやり取りを通して研究に関する活発な意見交換を行ってきたが、今回の留学で、初めて対面でお目にかかることができた。お二人からは、在英期間中、定期的な対面ミーティングを通して、研究について非常に多くのアドバイスを頂いた。また、お二人とはアカデミックな関係性を超えて親しくさせて頂き、帰国前に、それぞれのご自宅での昼食会にお招き頂いたことは特別な思い出になった。

初めての長期海外生活では、日本とイギリスの文化の違いに驚くことも少なくありませんでしたが、多くの非常に貴重な経験をすることができた有意義な 1 年となりました。今回の依命留学で得られた知見を今後の教育、研究に生かすことができるよう、引き続き精進してまいります。この度は依命留学の機会を頂き、誠にありがとうございました。